

令和4年度 第3回名張市子ども権利委員会会議録

- 1.開催日時：令和5年2月21日（火）15時～16時20分
- 2.場 所：名張市役所2階 庁議室
- 3.出席者：名張市子ども権利委員会 委員長、副委員長、委員4名
事務局：福祉子ども部 子ども担当部長、保育幼稚園室長
子ども家庭室 要保護対策担当室長、子ども家庭室 室員、子ども相談員
- 4.内 容：（1）新委員への委嘱状交付
（2）子ども・子育て支援法に基づく利用定員の協議について
（3）子ども施策の推進について
（4）その他

【質疑・意見交換】〔委〕：委員長 ○：委員 ⇒：事務局

1. 委嘱状の交付
副委員長に秋元委員が選任される。
2. 子ども・子育て支援法に基づく利用定員の協議について
【事務局説明】＊省略＊

〔委〕： 説明いただきましたが、名張市全体の数は分かりますか。

⇒： 約1700人前後で推移しています。

〔委〕： 幼稚園では定員が変わっても、教室の大きさは変わらないのでしょうか。

⇒： 認可定員とは施設に最大入る人数で、利用定員とは国、県、市から運営費の収入を受ける時の単価に影響してくる人数で、それを減らすということです。教室の大きさはそのまま最大の受入可能児童数は変わりませんが、実態に合わせて減らし、その分の収入を上げるということです。

〔委〕： 保育所ではどうですか。

⇒： 子どもの人数に対する必要な面積はあります。利用児童数や各園の状況によって部屋の使い方を考えています。

〔委〕： 間仕切りがあると消防法で駄目だと言われ、待機児童をゼロにしようとして認定こども園にしてもらったりして、人数が減るときは、県や市の補助があまり無いように聞きましたので質問しました。

⇒： 定員人数が収入に直結しますので、子どもが少ないまま運営していると低い単価となりますことから、運営に苦勞されていることと思います。定員数が小さいところは、子どもの減りが運営に直結しますので、これからの課題と思っています。

〔委〕： 他の幼稚園や保育園でもこういう状況が出てくる可能性があると思います。地域に保育所が残っていればいいと思いますので、子どものことを考え、市でも補助を出せるよう考えてほしいと思いました。

⇒： 国の補助金の対象にならない場合は、こういう補助もあるということを相談しながら考えていきたいと思います。

〔委〕： 保育所や幼稚園に知らせてほしいと思います。他に意見はありますか。

○： 現実に即して認めるしかないと思いますが、この委員会で小規模家庭的保育事業に予算を出したりしていた時代があったと思います。0歳から2歳の保育所ができていたので厳しいと推測します。

仕事を1年間休んで半年すれば保育所を一旦退所されてしまったり、きょうだいで別々の施設に預けて送迎しているということを聞いたりします。待機児童が無くなってきているのに、子どもも減ってきているので、親子に合わせた方法があるのではないかと思います。経営も大事というのはわかりますが、利用者側の使い易さも大事にしていけたらと思います。

⇒： 市内の通勤に近い施設に希望が集中しますので、やむを得ず他のところに行ってもらうこともあります。育休の6ヶ月での退所についても保護者から意見をいただいているところです。また、0歳、1歳は待機が多いですが、2歳の待機は減少傾向となってきました。今年度までは保育所を継続できる対象年齢を3歳以上としていましたが、2歳以上からに拡大したりするなど、できるところから使い易いようにしていこうと考えています。

○： 半年とは言わず、数ヶ月ずらせるのであれば、ずらしてほしいと思います。

〔委〕： 他にご意見はありませんか。

○： 資料を読ませてもらいましたが、現状に即していると感じました。

〔委〕： この事項については、これで終了したいと思います。

3. 子ども施策の推進について

【事務局説明】＊省略＊

〔委〕： 子ども自身もクリーン作戦に参加するようなものがあればいいと思います。子どもが大きくなっても街をきれいにすることができるよう、子どもたちが考えた提言が進化して市全体に広がっていけるのではないかと思います。

⇒： この取組については、各学校に配っているほっとラインというものを使って環境美化の啓発はできるのではと思います。

○： 以前、6月に市全体で行うクリーン作戦に子どもも参加すればという意見が地元の地域でありましたが、大型ゴミをを拾うのは危険が伴い、危ないということで子どもは参加しませんでした。

した。ですが、地域と小中学校の子どもが一緒にすることもできるのではと思いました。

⇒： ばりっ子すくすく計画の中で、子どもには参加する権利というものがあり、子どもが大人と一緒に参加する経験は大事なことで、普段からの付き合いというものが必要ではないかと思います。大人から子どもを参加させていくという意識も必要ではないかと思いますし、子ども自身にも参加したいという気持ちを持ってもらうことを学校と協力していかなければならないと考えています。今回の提言を教育委員会と連携しながらポスターを貼り、普段から学校独自でも取り組んでいますし、子どもの姿を見て地域の大人たちも変わっていくのではと思います。

委： 先ほど、子どもの参加は危ないという意見がありましたが、危ないからこそ、大人も参加して一緒に気を付けるようにしないといけないと思いました。

○： ばりっ子会議というものは、特別な子どもたちが集まっているという見方をしていれば、それは違うと思います。ばりっ子会議が名張市の子どものリーダーという位置づけで提言しているので、それをうまく受け止めて市全体に広げていくことが大事だと思います。地域と子どもたち、大人たちが一緒になって活動をする場づくり、提言を受けて子どもたちが動こうという環境づくりが大切だと思います。

また、ばりっ子会議に関わりの無い子どもたちが自分たちの喜びとして捉えているのかというを感じています。そこを周りの大人が昇華させてあげればと感じています。

○： ばりっ子会議に参加した子どもが、自分が通っている学校にどれだけ働きかけているのかも大事ではないかと思います。自分たちで決めたことを自分たちでどう広げていくかという活動ができているのかと思いました。親子で一緒に活動することも大事であると思いました。

○： ばりっ子会議のメンバーは市内各学校から平等に出ているのですか。

⇒： ばりっ子会議には毎年40人ほど応募があり、全学校からという訳ではありません。会議の場だけで終わることのないよう、子ども全体で共有できるよう工夫していきたいと思います。

○： ゴミ拾いを始めるとゲーム感覚で喜んで行う子どももいます。いい提言をしていただいたので、もっと広げてもらえればと思います。

委： 地域の大人と子どもたちを結びつけるようなものを行えば、子どもたちの姿勢や視線も変わっていくのではないかと思います。

○： 子どもが減っているので、文化祭など地域と子どもが一緒にできるものがあれば、名張市の発展に繋がると思います。

⇒： ばりっ子会議は、子どもが思ったことや訴えたいことを体現させていくところです。提言書やポスターに載っている「なばりん」は、子どもたちが考え、名張市を紹介したいという思いを受けて、市では色々なところに活用しています。考えたメンバーとしては、今も使われているとして、いい思い出として残っています。それを後輩たちが引き継いで名張市を紹介していきたいという思いに繋がっているのかと思います。成功体験が大人になって非常に有効になっ

てくるのではと思います。

また、小学校1年生と6年生という年齢の差があり、考え方が違ってくると思いますので、40人の中でも、年齢層に分かれた方法もあるのではないかと考えていますので、今後の取組に生かしていければと思います。

○： 保護者の地域活動が減ってきていると感じています。子育て世代の親が地域活動に参加していないので、子どもが参加したいと言えば親も参加することに繋がると思います。ばりっ子会議で、どのようなことをしているのかを知らせる方法として、放課後子ども教室とタイアップしてみてもいいのではと思います。

⇒： ばりっ子会議では、子どもの意見を尊重して提言書の提出に繋がっているところです。会議のあり方について、毎年改良を重ねていきたいと思います。

○： 名張市で独自性のある、子ども施策に反映できるものがあれば、職員から市長に提言してもらうことも大事ではないかと思います。いいことはどんどんと実現してもらえればと思います。

4. その他

【全国自治体シンポジウムの参加について事務局説明】＊省略＊

〔委〕： 行政の横のつながりも大事だと思います。地域の特性、良いところ悪いところを吸収して名張の子どもたちに還ってくるようなれればと思います。

あと、他に無いようですので以上で終わらせていただきたいと思います。